

あ と が き

9月の中旬に、炉物理国際会議 PHYSOR2008 がスイスで開かれました。この報告は次号への寄稿をお願いしています（非常に大きな会議なので計4名の豪華執筆陣です。ご期待下さい）が、核データ研究者の参加が多かったのが印象的でした。昔は、核データ研究者は炉物理の会議には近寄らず、炉物理研究者は核データの会議には近寄らないことが多かったように思いますが、近年、特に新型炉開発の世界では、炉心の核設計の信頼性を確保し精度を向上させるためには、核データと炉物理が協力して研究開発を行わなければならないという認識が、米仏日を中心に定着しつつあります。この流れに歩調を合わせて、核データニュース編集委員会も、積極的に炉物理ネタの寄稿をお願いしています。直近の3つの号（No.88～90）では、以下のような炉物理関連の話題が提供されました。

- ・ 臨界安全評価のための不確定性解析に関する NEA 専門家グループの活動紹介
- ・ 日米協働による JUPITER 実験詳細データの発掘
- ・ Advanced Nuclear Fuel Cycles and Systems "GLOBAL2007"参加報告
- ・ 研究室だより：核設計技術開発グループって、何をしてるの？
- ・ 臨界安全性国際会議 ICNC2007 出席報告
- ・ 第39回炉物理夏期セミナーに参加して

50年代の米国の Pops に、"To know know know him, is to love love love him..."という歌詞がありました。隣の分野が何をやっているのか何を必要としているのか、まず関心を持つことから、分野間の協力関係が始まるのだと思います。核データニュースの記事が、そのきっかけのひとつになればいいなと思っています。

石川 眞

e-mail:ishikawa.makoto@jaea.go.jp

核データニュース編集委員会

中川庸雄（委員長、原子力機構）、井頭政之（東工大）、石川 眞（原子力機構）、
岩本 修（原子力機構）、山野直樹（東工大）、吉田 正（武蔵工大）、渡辺幸信（九大）
[オブザーバ] 喜多尾憲助、[編集] 石橋貞子